■シリーズ■ 中学校武道 ―授業の充実に向けて― 102

複数種目授業の実践報告と課題⑯（6種目合同授業）

加茂市合同武道授業

加茂市は新潟県のほぼ中央に位置し、古くから北越の小京都といわれている。人口はおよそ3万人、9000世帯が生活を営んでいる。市内には、7つの小学校と5つの中学校があり、市民の願いが込められた「加茂市民憲章」の精神の下、「豊かな心でたくましく実践する子ども」を目指し、生徒たちは学業、部活動に励んでいる。

加茂市では小池清彦市長の発案により、平成22年度から中学校武道の合同授業を行っている。市内の中学1・2年生全員と武道授業希望の3年生を対象に下条体育センターにおいて、柔道、剣道、合気道、空手道、柳生新陰流剣道、穴澤流なぎなたの6種の授業を、10月中に4回、1回2時間、行っている。昨年10月25日・26日の2日間、下条体育センターと加茂市役所を訪ねて、合同授業を取材し、小池市長にお話を伺った。今回は実施から7年目を迎えた加茂市での合同武道授業を紹介したい。

1 合同武道授業について加茂市長に伺う

10月25日の午後、加茂市役所を訪れ、小池清彦市長に加茂市合同武道授業についてお話を伺った。

(1)合同武道授業のきっかけ

「平成20年度の学習指導要領の改訂により、中学校保健体育科の『武道』について、平成24年度から全国の中学1年生と2年生で必修となり、3年生は『武道』か『球技』かの選択となりました。それを受けて、加茂市では、安全を第一と考えると中学校の武道授業は、平成24年度以前に先行実施し、準備に万全を期せねばならないと考えました。そして授業を安全に行うためには、生徒の集中力が途切れないような魅力ある武道授業としたい。しかし、柔道・剣道など限られた武道では、必ず好き嫌いがあり、授業に集中できない生徒がいます。そこで選択肢を広げるという発想となりました」と小池市長は合同武道授業のきっかけを話された。

合同武道授業について語る小池清彦加茂市長

種目の選択肢を広げ、大勢の生徒が自分にあった武道を選択する。自分に適した武道であれば、生徒は授業に積極的になり、安全で有意義な授業となる。

合同授業のきっかけは市長の〝加茂市のすべての生徒が安全で有意義な武道授業を受けてほしい〟との願いからであった。それから小池市長の合同授業に向けた暗中模索は始まる。

(2)合同授業に向けた準備作業

「次に考えたのは何の種目を加茂市で実施するかです。柔道・剣道は学習指導要領に明記されているので必ず行わなくてはなりません。それ以外のどの武道を行うのか……。合気道は古来の柔術の要素が凝縮されており安全に行える武道であるので、実施した方がいいと考えました。空手道もやはり、武道の要素が入っており、安全に行えます。そして私自身は柳生新陰流剣道と穴澤流なぎなたをやっています」

こうして加茂市では、柔道、剣道、合気道、空手道、柳生新陰流剣道、穴澤流なぎなたの6種目が実施候補としてあがった。

実施種目が決まったら、それをどのように、どこで行うか、方法と場所の選定である。

「市で検討した結果、やはり市内の中学生を一堂に集めて合同でやるしかないだろうという結論に至りました。そして市の職員から『下条体育センター』がいいとの声があがりました。実際に視察に行きましたら、とても立派な武道場でした」

下条体育センターは加茂駅から南西へ徒歩10分の場所に位置し、1階には760㎡の武道場があり、柔道場2面、剣道場2面の広さを持つ。2階は907㎡の競技場でバレーボールもできる高さがある。また同センターには、講師の控室などに活用できる市のコミュニティ施設が隣接している。

場所の次はモノ、用具である。

「市議会の承認を得て、柔道着から剣道防具や竹刀、空手着など武道授業で使用する用具はすべて市で購入しました」

柳生新陰流で使用するおよそ3

下条体育センター２階（競技場）

下条体育センター１階（武道場）

尺３寸（約100㎝）、２尺３寸（約70㎝）、１尺３寸（約40㎝）の大中小の袋竹刀（ふくろじない）や、穴澤流なぎなたで使用する薙刀や槍も特別発注したという。首長が大号令をだすと、迅速に市が動いている様子が窺（うかが）える。最後にヒト、指導者である。

「合同授業を行うには、各武道とも専門家の指導のもと、授業を実施し、生徒には短時間であっても武道の真髄に触れてほしいと考えていました。それで、柔道・剣道・空手道は地域の師範の先生方に依頼しました。柔道は新潟県柔道連盟理事長の水信健柔道七段に、剣道は加茂剣道会会長の番場馨剣道教士七段に、空手道は加茂空手道クラブ師範の金谷國彦空手道八段に依頼し、快諾を得ました。そして柳生新陰流剣道と穴澤流なぎなたは私が指導します」

問題は合気道であったという。

「私も合気道を稽古しておりましたので、やはり植芝盛平合気道開祖から続く正しい合気道を生徒に学ばせたいと思っておりました。そこで植芝守央合気道道主のもとへ行き、合気会師範の派遣を依頼しました。そしたら道主が調べていたのか『あなたは合気道二段ですね』とおっしゃるのです。こうして合気道も金澤威師範をはじめとする指導部の先生方を派遣していただけることになったのです」

各学校から会場である下条体育センターへの移動手段は、スクールバスを運行することでめどがつき、指導者、場所、用具も揃えて、加茂市では平成22年度より合同武道授業を実施することになった。

※第1回目の合同授業については月刊「武道」２０１０年12月号を参照のこと。

(3)合同授業前の武道演武会、その後の実施選択

加茂市では、市長発案のもと、平成22年度の第1回目の合同授業より、毎年10月の授業実施に先立って、5月の連休明けに武道演武会を実施しているという。平成28年も5月10日に、市役所近くの加茂文化会館大ホールで市内の全中学生およそ650名を対象に実技指導者による演武会を行い、その後に選択の希望調査を行ったという。

それぞれの武道のイメージを生徒自身の中で作ってもらい、行いたい武道授業を選択してもらう。これも生徒の興味を継続させるための配慮であろう。また、演武会では生徒の心情が手に取るようにわかるという。

「加茂市の合同授業では合気道と空手道で1学年140人が希望し、この2種目が人気種目となっています。その一つの要因は武道演武会にあるかもしれません。空手道の演武は同学年の道場に通っている生徒が手伝います。生徒たちは〝私にもできる〟と思うのでしょうね。また、合気道は金澤師範の演武に魅了され、これもまた〝やれそう、やってみたい〟と思うようです。そして柔道だと指導者の先生のキレのある演武に生徒は恐れをなしてしまうようです。裏を返せば、柔道希望者は真に柔道をやりたい生徒のみでしょうね」

生徒数に偏りが生じるのであれば、調整すればよいように思えるが……。

「種目によりどんなに生徒数にバラツキが起きても、人数調整は一切行いません。あくまで、希望した種目を実施することに意義があるわけですから」

あくまで生徒自身が希望した種目を実施させる。これを崩してしまうと〝自分に適した種目を選択する〟という合同授業の根幹が崩れてしまうということであろう。しかし、人気のある種目は必ずしも積極的に選択されているとは限らない。選択した種目がイメージと違い、授業に消極的になった生徒がいたらどうするのか。

「興味がない種目を続けても意味がありません。種目は途中で変更することもできます」

人数調整も行わず、途中の変更も可能である加茂市の合同授業。途中の変更などは〝継続してやり遂げる力が育たないのでは〟などという意見もありそうだが。

〝短期間で安全に武道の真髄を含んだ授業を行うには、生徒が興味を持ち、主体的に選択した種目であることが第一である〟

合同授業のきっかけともなったこの発想が、合同授業を行うための希望選択の規則にも徹頭徹尾、組み込まれている。

「各学校からは第3学年でも武道を必修としてみたらどうかとの提案がありました。しかし、それは否定しました。学習指導要領に則して第3学年は武道か球技かの選択としています」

最後に市長から第3学年の選択授業についてこのように付け加えられた。ちなみに、加茂市では球技はハンドボールの1種目のみを行っており、この合同武道授業に合わせて、ハンドボールでも市内中学校一斉授業を行っている。平成28年は、中学3年生249人中、119人が球技（ハンドボール）を選択、女子は勤労者体育センター、男子は加茂中学校と葵中学校で実施したそうだ。

2 加茂市武道実行委員会

加茂市では教員経験を持つ職員の発案により、回を重ねてより良いものにするため、授業の前後に武道実行委員会を開いているという。委員会では、教育長が顧問となり、中学校長、保健体育科教諭、養護教諭と加茂市の関係部署職員、十数人が集まる。合同授業終了後、授業を受けた全生徒に対して、感想文やアンケートをとっており、そこから課題を見つけ、話し合いを重ねるという。また、委員会では市からの各学校に対する依頼事項、情報共有もその場でなされる。〝全国に前例がない合同武道授業では必ず失敗もでてくる。失敗したならば、学校側でも色々と考え、それを市とともに検討、都度修正すればいい〟――そのようなコンセプトで平成22年度の第1回目の合同授業から実施しているという。

3 合同授業の実践

10月25日・26日の取材をもとに合同授業について紹介したい。

両日とも、中学1年生、2年生の4回目の授業を午前10時から正

武道演武会（2016年5月・写真提供＝加茂市）

武道演武会（2016年5月・写真提供＝加茂市）

柳生新陰流剣道の袋竹刀

各階には実施種目を掲示

続々と来館する各校の生徒たち

穴澤流なぎなたで使用する槍(手前)となぎなた(奥)

午まで実施。10月初旬より行っていた授業の最後となる。

⑴授業実施前

25日、午前9時過ぎには下条体育センターに市の職員およそ10名が来館。授業のための準備が手際よく進められていた。1階で柔道、合気道、柳生新陰流剣道・穴澤流なぎなた（人数の都合上、合同で行われた）が実施され、2階では剣道と空手道の授業が行われた。各階の出入口にはその階で実施する種目と実施場所を明記した張り紙が張られ、それぞれの授業実施場所には用具が運び込まれていた。柳生新陰流剣道では、大・中・小の袋竹刀およそ130本、穴澤流なぎなたでは形用なぎなた60本、槍がおよそ20本用意されていた。前述の特別発注のまだ新しい購入用具である。2階の競技場ではバレーボール用のネットソケットにラインテープ消しを貼り、生徒が安全に稽古できるような配慮がなされていた。剣道具は期間中、競技場の上にあるギャラリーに置かれている。

9時半にはスクールバスで各中学校の生徒が体操着で来館した。各人、ビニール袋をもっている。道着に更衣後、生徒は体操着、上履きを袋に詰め、各会場の脇に置いていた。ビニール袋には学校名、実施種目、氏名、通し番号がマジックで明記されている。混乱もなく、生徒たちは10時前には授業の準備が完了していた。また、保健室がないためか、救急箱をもった養護教諭が1名待機した。前述の実行委員会での打合せ内容がきちんと反映されているように感じられた。

⑵小学生による授業見学

授業実施中の10時半過ぎ、近隣の下条小学校の6年生男女約30名が合同授業の見学に来館した。小学生はグループ別に行動し、それぞれの順序で実施種目を見て回る。これも学校側の発案により行われている。毎年、2回目の合同授業から開始され、見学は各小学校がシフトを組んで実施しているという。

この小学生見学の発案が小池市

柔道の授業（２年生）水信健師範による投技の指導

剣道を見学する下条小学校の生徒たち

柔道の授業（１年生）寝技の指導

柔道の授業（２年生）投技の練習

長でなく、学校側であるところにも注目したい。前述の3年生での武道授業を必修とする提案もそうであるが、首長の大号令により始まった合同授業だが、市の職員、学校教員もそれを受け入れ、主体的に関わっている表れではないだろうか。

⑶各道の授業

授業では種目ごとに数名の担当教員を配置し、授業者としている。各中学校の教員は全中学校を兼務することになっているという。

①柔道（1年生22名、2年生21名）

1年生の授業

準備体操後、受身、足技を指導。足技での崩しの授業では、足技の原理を説明。水信健師範より「柔道は原理がわかれば技がかかります。原理をしっかり理解しましょう」と説明があった。続いて、寝技の指導がなされた。

2年生の授業

前回り受身の段階的指導の後、足技、投技の指導があった。足技の約束崩しの授業では「足の捌（さば）きをしっかりやれば技はかかります」と水信師範より説明が加えられる。寝技の指導では「けがの予防のため、相手を気遣ってあげることが重要です」と注意点があげられた。

▽担当教員＝

田中伸一教諭（葵中学校）

「生徒は水信先生の指導のもと、積極的に授業を受けていると思います。葵中では、4回全ての授業終了後に、『武道授業を終えて』のアンケートを行っています。生徒の回答は概ね、『面白かった』『将来の役に立つと思う』など、前向きな回答が多いですね。スクールバスでの移動ですので、遠くの中学校は時間がかかりますが、会場への入館・退館もスムーズにいっていると思います」

▽指導者＝

水信健師範（新潟県柔道連盟理事長）

「授業では安全に行うことを一番に心がけています。選択制ですので、生徒は積極的に受けてくれています。実技では足技、投技、寝技を段階的に指導しています。試合は安全のために行いません。乱

合気道の授業（２年生）金澤威師範による第一教の指導

合気道の授業（２年生）テープごと列になって小手返しを練習

空手道の授業（２年生）基本の形の練習

空手道の授業（１年生）金谷國彦師範による形指導

剣道の授業（１年生）面打ちの練習

剣道の授業（２年生）番場馨師範による面打ちの指導

合気道の授業（１年生）小手返しの練習

剣道の授業（１年生）正面打ちの練習

取り稽古にとどめています」

②剣道（1年生25名、2年生23名）

中学1年生

授業では、礼法、竹刀を持っての素振り、正面打ち、面・胴を着けての面打ちの指導がなされた。

中学2年生

面・胴を着けて小手・面、胴打ちの指導がなされた。

▽担当教員＝

平松広幸教諭（加茂中学校）

「私は剣道の経験がありません。ですので評価は、きっちり集合するとか挨拶とか防具をきちっと着けられるかどうかで行います。加茂中は1年生と2年生と連続で剣道を取っている子が多いんですけど1年目よりも2年目の方が積極性も増して、声も出て技術力も向上しているように思いました。私は剣道を教えることが出来ないので、有段者の方が教えてくれることは生徒にとってものすごく良いことだと思います」

▽指導者＝

番場馨師範（加茂剣道会会長）

「当初、剣道は40人くらい生徒がいましたが、どういうわけか、剣道の先生がおっかない、うるさい、となって剣道を選択する生徒は減りました。でも選択をした子に対してはそれなりの指導を続けていこうと決めました。そしたら、本当にやりたい子が集まるようになって、そこからはスムーズにいきましたね。3年最後の授業の時、ずっと剣道の授業を取っていた3人の生徒が、片付けをしている私のところに来て、〝3年間ありがとうございました〟と正座して御礼を言ってくれました。しっかりと挨拶できるこのような生徒がここから一人でも出れば十分です」

③合気道（1年生73名、2年生69名）

中学1年生

準備体操、受身の練習に続き、畳に張ってある白と黒のテープごとに列を作り、2人1組となって技の指導がなされた。第一教（表）、正面打ち入身投げ、正面打ち小手返しの授業を行い、日野皓正合気会指導部指導員から「しっかり技を見て確認してください」と注意点が加えられた。その後、実技試験を行った。

中学2年生

準備体操、受身の練習に続き、角落しの一斉指導がなされた。金澤威師範からは「自分の体がどのように崩れるか感じてください」と説明があった。畳に張ってある白と黒のテープごとに列を作り、2人1組となって角落しの指導がなされた。第一教（表）、正面打ち小手返しの授業を行い、最後に金澤師範から「授業では相手を思い遣ってください。武道で一番大切なことです」と留意点が加えられた。その後、実技試験を行った。

▽担当教員＝

白川亮治教諭（若宮中学校）

「合同授業で生徒が種目を選択するこのシステムはすばらしいと思います。柔道・剣道には触れる機会が多いですが、ほかの種目はなかなかそのようにはいきません。私も合同授業で合気道を知りました。合気会の師範の先生方のお蔭で、いい授業になりました」

▽指導者＝

金澤威師範（本部道場指導部師範）

「第1回目から加茂市での授業を行っています。加茂の子供たちは素直でいいですね。『合気道指導の手引き』に則し、全学年ほとんど同じ授業内容となっています。2年生・3年生の授業となると、経験者と未経験者で実力に差がでてきますが、授業ではそれほど支障はなく、スムーズに行っております。生徒たちの集中力が途切れることなく、魅力的で正しい合気道を学んでもらえるように留意して、指導をしています」

④空手道（1年生64名、2年生75名）

中学1年生

金谷國彦師範の指導のもと、全体で突きの練習を行い、模範演武後に、基本の形を中心に指導がなされた。

中学2年生

突きの指導の後、2班にわかれ、発表形式で基本の形の練習がなされた。

▽担当教員＝

小林豊教諭（七谷中学校）

「合同授業が始まって7年間、私はずっと空手を担当しています。私たち教員が授業をするよりも、

柳生新陰流剣道の授業（２年生）小池清彦師範の指導

穴澤流なぎなたの授業（１年生）槍合の模範演武

専門家が指導しますので、私たちも勉強になるし、生徒たちも幸せだと思いますね。7年経って、この授業も軌道に乗ってます。自分の学校であれば、私ができる柔道しか行えませんが、ここなら専門家が教えてくれますからね」

▽指導者＝

金谷國彦師範（加茂空手クラブ師範）

「授業では、始まる時に正座させて、技を通して身体と心が離れたものじゃないということを教えます。技から教えて心も教えて身体を鍛えていきます。形が終わった後にも礼をさせて。身体で覚えさせます。正座や正面に対する礼なんてしたことないでしょうから、合同稽古が終わった後には生徒は我慢強くなっています」

⑤柳生新陰流剣道・穴澤流なぎなた（1年生25名、2年生8名）

中学1年生

小池清彦師範より「ゴルフではクラブを正しく振るとボールは遠くまで飛びます。柳生新陰流も同様に正しく袋竹刀（ふくろじない）を使って、仕太刀の練習をしましょう」と冒頭に発言があった。生徒は2グループに分かれて、小池師範、志田健太郎助教のもと、一刀両断、斬釘截鉄（ざんていせつてつ）、半開半向などの仕太刀を練習した。

中学2年生

柳生新陰流剣道では燕飛（えんび）の仕太刀を中心に指導。穴澤流なぎなたでは槍合（やりあい）としてなぎなた対槍の形稽古がなされた。

▽指導者＝

小池清彦師範（加茂市長）

「8時間で40人の授業ですので、柳生新陰流剣道では仕太刀を指導しております。この授業がきっかけで私の道場に来てくれる生徒がいればと思いますが、なかなかいませんね。剣はやはり日本の武道が一番だと思います。少ない時間の中で生徒に少しでもその真髄に触れてもらえればいいですね」

⑷生徒の感想

▽中学1年女子（合気道）

「相手を攻撃せず、思いやる武道だと思い、選択しました。技は難しいです」

▽中学1年男子（剣道）

「声が出なかったんですけど、竹刀を持ったときは楽しかったです。来年もまた剣道をやりたい。小学校で見学したことがあって面白そうだなあと思ったのがきっかけです。礼をしっかりやって使っていけたら良いなと思います」

▽中学1年女子（剣道）

「剣道は楽しかったです。兄がいて、〝剣道楽しかったよ〟って言っていたので選びました。隣で見ていて楽しそうだから、来年は空手をやってみたい。毎年違う武道をやってみたいです。礼儀とか挨拶が大事だということが改めて実感できたので、これからの生活に活（い）かしていきたいなと思います」

▽中学1年男子（空手道）

「選択した理由は自分の身を守るため。空手は難しいけど来年もやりたいなと思いました。でも空手が生活で役に立ったことは特にないです。3年生になっても授業を受けたいです」

▽中学2年男子（柳生新陰流剣道・穴澤流なぎなた）

「日本古来のものにふれられ、かっこいいと思い、2年連続で希望しました。燕飛は面白いですね。来年も同じものをやりたいです」

▽中学2年男子（合気道）

「2年連続合気道を受けました。相手の技を返して、技を出すところが面白かったです。来年は球技を行います」

▽中学2年男子（柔道）

「去年は空手道をやっていましたが、今年はリオ五輪をテレビで見てかっこいいと思い、柔道を行いました。投技が楽しいです」

▽中学2年男子（剣道）

「去年は柳生新陰流剣道を選択しました。今年は近くにある加茂高校での剣道の様子がすごく楽しそうだなと思って、剣道を選びました。思った以上にきつかったんですけど楽しかったです。部活は卓球部です。来年は空手か剣道をやってみたいです」

▽中学2年男子（空手道）

「突きや基本をやりました。その中でもピンアン四段という形がとても実用的で、襲われた時に使えたら良いなと思いました。昨年も空手を選択しました。色々な武道の中で空手が一番気合いが入ります。1年やってみて昨年よりうまくなった実感があります。やっぱり一つ一つの動きが相手に対してどういう動きになっているかということを考えてやると実用的だなということを改めて思いました。来年も空手をやりたいです。日常でも声を出す時に腹から声が出るようになりました」

▽中学2年女子（空手道）

「昨年も空手を選択しました。今年も突きとか蹴りとかが楽しかったです。部活はテニス部です。空手はテニスで打つ時の足の幅とかに応用しています。去年よりちょっとだけうまくなったと思います。来年も空手をやってみたいです。挨拶が以前に比べてしっかりできるようになって声も出るようになりました」

4 まとめ

取材の終わりに、小池市長に加茂市の合同授業の今後を伺った。

「私もまだまだ元気ですし、加茂市の合同授業は今後も、同様に継続していきます」

多忙の中、首長として指導者として合同授業を行ってきて、相当な労力を費やしたと思うが、まだまだ精力的に取り組んでいくことが力強く語られた。しかし、合同授業の実施から7年目を迎えるものの、他の市区町村での実施の声は聞こえてはこない。やはり、首長が武道や合同授業に対して相当に理解がなければ実施は難しいのであろうか。

「授業では8時間、安全にニコニコしながら実施が一番ですよ」

最後に市長はこう語った。市長のこの短い感想に、加茂市の取り組む姿勢がすべて集約されているように感じる。短い時間での武道授業では、安全で楽しく生徒主体の授業が第一優先である。その条件下で、少しでも武道の真髄に触れるためのシステムが合同武道授業である。多くの市区町村でもこのシステムが取り入れられればと願うものである。

（文＝長澤克成・写真＝鈴木智也）

（資料）平成 28 年度加茂市中学校「武道等」希望調査集計表

区　分	1年生			2年生			3年生			全学年合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
柔　道	9	13	22	16	5	21	3	2	5	28	20	48
剣　道	19	6	25	6	17	23	4	12	16	29	35	64
合気道	41	32	73	37	32	69	16	11	27	94	75	169
空手道	26	38	64	37	38	75	6	34	40	69	110	179
穴澤流なぎなた	11	6	17	0	1	1	2	14	16	13	21	34
柳生新陰流剣道	6	2	8	6	1	7	25	1	26	37	4	41
武道合計	112	97	209	102	94	196	56	74	130	270	265	535
球　技							69	50	119	69	50	119
総合計	112	97	209	102	94	196	125	124	249	339	315	654

■実技指導者

▽**柔道**＝水信健（七段）、髙山誠太（五段）▽**剣道**＝番場馨（教士七段）、坂内真子（助教）▽**合気道**＝金澤威（本部道場指導部師範）、鈴木俊雄（本部道場指導部指導員）、日野皓正（同）、梅津翔（同）▽**空手道**＝金谷國彦（八段）、助川茂（四段）、西村修市（参段）▽**穴澤流なぎなた、柳生新陰流剣道**＝小池清彦（穴澤流薙刀術免許皆伝、柳生新陰流剣道免許皆伝）、志田健太郎（助教）（敬称略）